

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 28 年 3 月 24 日 (2016.3.24)

【公開番号】特開 2015-102397 (P2015-102397A)  
 【公開日】平成 27 年 6 月 4 日 (2015.6.4)  
 【年通号数】公開・登録公報 2015-036  
 【出願番号】特願 2013-242291 (P2013-242291)  
 【国際特許分類】

G 0 1 T 1/17 (2006.01)

G 0 1 N 23/20 (2006.01)

【F I】

G 0 1 T 1/17 E

G 0 1 N 23/20

【手続補正書】  
 【提出日】平成 28 年 1 月 27 日 (2016.1.27)

【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】請求項 6  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【請求項 6】

前記ピクセルの感度を補正するための情報は、前記ピクセル各々の補正係数で構成されるテーブルであることを特徴とする請求項 1 から請求項 5 のいずれかに記載の補正情報生成方法。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 0 2  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 0 2】

ピクセル検出器においてピクセル毎に相違する感度を補正して実際の感度を仮想的に一樣にする補正を一樣性補正 (Flat -Field Correction) という。ピクセル検出器の一樣性補正は、各ピクセルで読み出される値を規格化して行なわれ、1 次元以上の検出器に対して効果がある。

【手続補正 3】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 2 5  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 2 5】

利用する回折 X 線については特に限定されないが、広角の結晶面の回折 X 線の方が検出面上で直線に近くなり補正しやすい。また、2 本の回折 X 線が近い回折角にある場合でも両方とも検出面を通過させることで一樣な照射が可能になる。

【手続補正 4】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 4 2  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】

## 【 0 0 4 2 】

例えば、断面弧状の X 線に対して検出器 1 3 0 を動かすと検出器 1 3 0 の検出面内を弧が動く。検出器 1 3 0 の検出面に対して弧の照射分を積算すると弧が動いた分が全ピクセルに対して積算される。このような積算された X 線検出データを用いて一様性補正をする。また、得られたデータからバッドピクセルを判定することもできる。

## 【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 5 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

## 【 0 0 5 4 】

図 7 ( a )、( b ) は、それぞれ移動方向、その垂直方向に沿ったカウントの分布 1 a、2 a および積算カウントの平均値 1 b、2 b を示すグラフである。これらは、検出器の x 方向と y 方向のカウント数の均一性を表した結果を示している。